

## 滋賀大学図書館所蔵 Léon SayからAlfred de Fovilleへの書簡(1883)

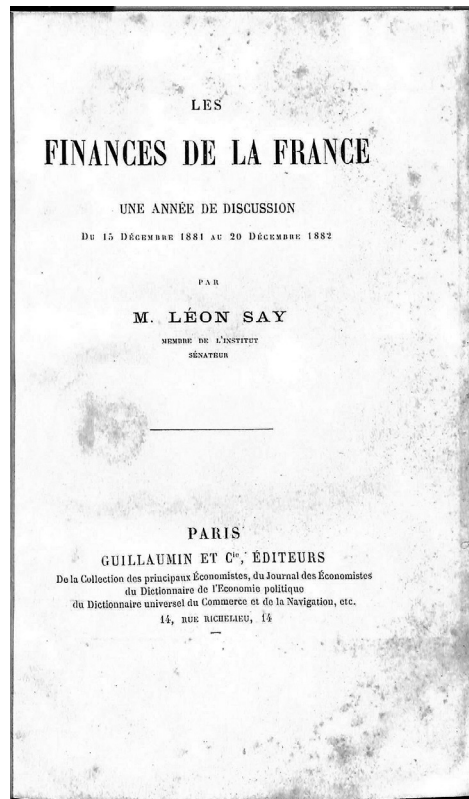
御崎加代子

Kayoko Misaki

滋賀大学 経済学部 / 教授

滋賀大学附属図書館は、レオン・セー (Léon Say, 1826-1896) の著書『フランスの財政—1881年12月15日から1882年12月20日までの1年間の議論』 (*Les finances de la France : une année de discussion du 15 décembre 1881 au 20 décembre 1882*, Paris : Guillaumin, 1883) を所蔵している。本書に添えられた書簡から判断して、これは、著者のレオン・セーが、統計学者アルフレッド・ド・フォヴィーユ (Alfred de Foville, 1842-1913) に献呈したものであることがわかった。

レオン・セーは、フランスの自由主義経済学者、実業家、政治家であり、「セー法則」で有名な経済



第1図 レオン・セー『フランスの財政』(1883)扉

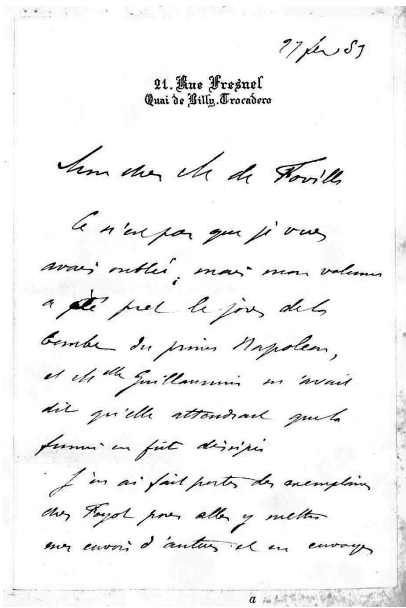
学者 J.B.セー (Jean Baptiste Say, 1767-1832) の孫にあたる。レオン・セーは、フランスの財務大臣を3回務め(1872年-73年、1875年-79年、1889年)、日本銀行の設立にも影響を与えた人物としても知られる<sup>1)</sup>。

アルフレッド・ド・フォヴィエユは、レオン・セーと同時代のフランスの著名な統計学者で、『経済からみたフランス-論理的比較統計』(*La France économique. Statistique raisonnée et comparative*, 1887-1890) や『貨幣論』(*La Monnaie*, 1907) など、多くの著作を残している。当時の日本政府への影響は不明であるが、一橋大学経済研

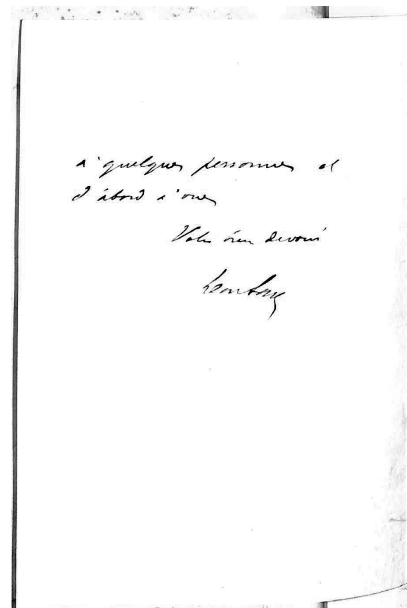
究所附属社会科学統計情報研究センターには、『アー・ド・フォヴィエユ 國富の意義及測定法』(内閣統計局、19-- )の謄写版が保管されており、関係者の間でフォヴィエユの業績が知られていたことがうかがえる。

レオン・セーは、1883年に公刊した著書『フランスの財政』の一冊を、書簡を添えてド・フォヴィエユに献呈した。滋賀大学附属図書館が所蔵するのは、まさにその献呈本と書簡なのである。

書簡の文章からは、レオン・セーがと16才年下の統計学者ド・フォヴィエユに対して、敬意と親近の情を抱いていたことが感じられる。



第2図 セーからド・フォヴィエユへの書簡(表)



第3図 セーからド・フォヴィエユへの書簡(裏)

<sup>1)</sup> 日本銀行の創設者である松方正義が1870年代ヨーロッパ滞在中に、当時のフランス財務大臣レオン・セーから強い影響を受けたことについては、立脇和夫「中央銀行形成史序説-世界最古の中央銀行の検証」『早稲田商学』第403号(2005年3月)pp. 36-37を参照されたい。

(原文)

27 fév[rrier] [18]83  
21 Rue Fresnel  
Quai de Billy, Trocadéro

Mon cher M. de Foville

Ce n'est pas que je vous avais oublié ; mais mon volume a été prêt le jour de la bombe du prince Napoléon, et M<sup>elle</sup> Guillaumin m'avait dit qu'elle attendrait que la fumée en fût dissipée. J'en ai fait porter des exemplaires chez Fayot pour aller y mettre mes envois d'auteur et en envoyer à quelques personnes et d'abord à vous.

Votre bien dévoué

Léon Say

(日本語訳)

1883年2月27日

フレネル通り 21番地  
ビリー河岸 トロカデロ

親愛なるド・フォヴィーユ様

あなたのことを忘れていたわけではありません。私の本は、ナポレオン公の爆弾<sup>2)</sup>の日に準備ができていたのですが、ギョーマン嬢が、爆弾の煙が一掃されるまで待つと私に言っていたのです。

ファイヨのところは何冊かを届けさせました。それに著者の献辞を記して、何人かの人々に宛てて、何よりもあなた宛てに、送るためにです。

敬具

レオン・セー

【付記】

本稿の執筆にあたっては、リヨン第2大学教授 Jean-Pierre Potier教授と藤岡俊博滋賀大学経済学部准教授から貴重な助言を受けた。ただし、ありうべき誤謬はすべて著者の責任に帰するものである。

**2)** Jean-Pierre Potier リヨン第2大学名誉教授によれば、これは次のような意味である。1883年1月15日政治家のガンベタ(Gambetta)が亡くなった15日後に、ジェローム・ボナパルト(ナポレオン一世の兄弟)の息子であるナポレオン・ジェローム・ボナパルト(Napoléon-Jérôme Bonaparte, 1822-1892)がパリで、議会と憲法に反対する声明書の張り紙をし

た。それは政府を「弱く、無能で、無力」と形容し、国民投票を求めるものだった。この張り紙が爆弾の効果を生んだというのである。ナポレオン公は、警察に逮捕され、1886年にフランスを追放された。

## Letter from Léon Say to Alfred de Foville in 1883, preserved at Shiga University

Kayoko Misaki

Léon Say (1826-1896) was a French liberal economist and statesman. He is also known as a grandchild of the famous economist Jean Baptiste Say (1767-1832). Léon Say served as minister of finance in the French government from 1872 to 1873, from 1875 to 1879, and in 1889. It is well known that he exercised great influence on Masayoshi Matsukata, the founder of the Bank of Japan.

Shiga University Library owns a copy of Léon Say's work, *Les finances de la France : une année de discussion du 15 décembre 1881 au 20 décembre 1882*, Paris : Guillaumin, 1883.

With assistance from Professor Jean-Pierre Potier (professor emeritus at the University of Lyon 2), I discovered that a letter attached to this work was written by Léon Say himself to a famous French statistician, Alfred de Foville (1842-1913). The letter was written on 27 February 1883, when Léon Say dedicated this book to de Foville, and it shows Léon Say's respectful and friendly attitude towards de Foville.

This article contains the text of the letter and its Japanese translation.